

リニア駅周辺整備の実施設計に係る検討状況及び報告会について

リニア整備課

1 これまでの経緯

- (1) **基本構想**（平成27年6月策定）・**基本計画**（平成29年6月策定）の検討・とりまとめ
 目指す姿や整備コンセプトについて整理
- (2) **基本設計**（令和元年12月策定）
 「リニア駅周辺整備デザイン会議」、「ワークショップ」、「民間事業者との意見交換」等の場での議論を踏まえ、**整備に関する基本方針を「飯田・リニア駅前空間デザインノート」としてまとめる**
- (3) **デザインノートの内容**
 - ①**位置づけ**：「結いの広場－暮らしと風景をつなぐ駅」
 「暮らしを結う 風景を結う 人々を結う 時を結う 地域を結う」
 - ②**目指す姿（基本的な理念）**：「信州・伊那谷の個性で世界を惹きつけ、世界へ発信する玄関口」
 - ・機能的でコンパクトな駅空間－高度なトランジットハブの形成によりスムーズな乗換を実現
 - ・信州・伊那谷らしさを感じられる駅空間－来訪者へのおもてなしを実現
 - ・自然との調和を目指した駅空間－豊かな自然環境に配慮し環境モデル都市飯田を実現
 - ・地域と一体化した駅空間－地域の一体化を実現
 - ③**設計方針**
 - （設計方針1）アクセスやバリアフリーに優れた駅前空間 【交通】
 - （設計方針2）住民や来訪者の居場所となる駅前空間 【居場所】
 - （設計方針3）伊那谷の風景の魅力を引き出す駅前空間 【風景】
 - （設計方針4）人のつながりと伊那谷全域へいざなう駅前空間 【いざなう】
 - （設計方針5）時代を先取りし、変化に対応できる駅前空間 【未来】
 - ④**持続可能な魅力発信施設の運営に向けた仕組みづくり** 【仕組みづくり】
- (4) **実施設計（土木施設関係）**
 - ①建築関係の実施設計に先立ち、その基盤となる土木関係の実施設計に令和2年3月に着手
 - ②内容
 - ・土木施設的设计（道路・交通広場・駐車場・交流広場・調整池・造成（擁壁含む））
 - ・建築施設的设计（大屋根の構造形式・法規制に関する事項・木材加工調達に関する事項他）
 - ③並行して、デザインノートの内容の具現化に当たって必要となる機能を検討するために、以下の3つのプロジェクトを設置し、そこでの成果を実施設計に落とし込んでいくこととした
 - ・次世代インフラPJ :【交通】【未来】の具体化（設計方針1・5関係）
 - ・トータルデザインPJ :【居場所】【風景】の具体化（設計方針2・3関係）
 - ・ブランドクリエイティブPJ :【いざなう】【仕組みづくり】の具体化（設計方針4関係）

2 今後の進め方

- (1) **「市民向け検討内容報告の場」及び「意見交換の場」の2段階を実施**
 実施設計の検討状況の報告を行うとともに、広く市民より意見を聴取し、それを基にした意見交換を行うことにより、これまでの検討内容の確認と修正を行う。また、次のステップである事業実施フェーズに向けた新たな仕組みと体制の構築を行うための起点と位置付ける。

①「市民向け検討内容報告の場」

- ・**開催方法**：「市民向け検討内容報告の場」については、リニアに関する関心が高まるようコロナの影響も考慮しつつ、県の警戒レベルに応じた開催方法を検討中。

区分	開催方法	開催場所	開催時間
A レベル4以上 (県の警戒レベル)	事前に発表内容を動画収録し、その動画をYouTube及びケーブルTVで配信	動画配信のためなし	OnLineによりフリー
B レベル2～3	Aに加え、参加者数限定の 小規模な報告会 として開催	市役所会議室 他	OnLine：フリー 説明会：多くの市民が参加できる時間帯を設定
C レベル1以下	Aに加え、通常の 自由参加方式による報告会 として開催	エスバード 他	

※ B, Cにおける説明会は、インターネット環境が整っていない市民を考慮した開催を意図する。

- ・各PJにおける**報告内容**（検討経過及び状況の説明）

○次世代インフラプロジェクト

- ・モビリティ関係：
 - 自動運転やEV等の技術開発の状況
 - MaaS、駐車場、交通広場のトランジットハブとしての機能の整理
 - 地域モビリティビジョンに向けた整理
- ・エネルギー関係：
 - 域内エネルギーの可視化の必要性
 - EVなどのモビリティへの活用に向けた整理
 - 駅及びその周辺も含めたエネルギーエリアの構築に向けたシステム検討

○トータルデザインプロジェクト

- ・「デザインガイドライン」
 - 「結いの広場」のコンセプトの整理
 - デザイン検討の展開
 - 大屋根、グリーンインフラなどのデザイン要素の提案

○ブランドクリエイティブプロジェクト

- ・公民連携の仕組みづくり
 - 事業者とのヒアリングの概要
 - 駅前広場を中心とする運営・管理における公民協働の意義
 - コア事業者の決定に向けた事業者の育成などの今後の進め方に関する提案

②「意見交換の場」

「市民向け検討内容報告の場」の開催後、多くの市民から意見をうかがうことができるよう、1ヶ月程度の期間で多様な方法（サイト、メール、出前講座等）による意見募集を行い、その内容を踏まえて「意見交換の場」を開催する。

(2) 令和4年度上半期（土木の実施設計公表）までのスケジュール概要

- ① 1st STEP 3つのPJの検討経過について第1回定例会で報告（R4.03）
- ② 2nd STEP 3つのPJの成果を「市民向け検討内容報告の場」で公表（R4.05）
- ③ 3rd STEP 意見募集（サイト・メール）・意見聴取（出前講座等）（R4.05～06）
- ④ 4th STEP 募集・聴取した市民の意見を踏まえた「意見交換の場」の開催（R4.07）
- ⑤ 5th STEP 市民の意見を踏まえた実施設計（土木関係）の修正・変更（R4.07～08）
- ⑥ 6th STEP 実施設計（土木関係）の公表（議会への最終提示）（R4.09）

(3) 令和5年度以降の建築の実施設計に向けた推進体制の検討・再構築（R4.10以降）

- ① 令和3年度までの各PJの検討内容を実装化するための新たなPJの設置に向けた検討
- ② 事業全体を取りまとめながら事業推進を担っていく組織の設置
- ③ 公民連携に向けた事業展開の構築と活動の展開
- ④ リニア開業を見据えた機能の継続的な検討

3 令和4年度予算の概要

令和4年度における以上に関する予算：委託料 39,000千円

- ① 「市民向け検討内容報告の場」開催費用
- ② 「意見交換の場」の開催費用
- ③ 市民の意見を踏まえた実施設計（土木関係）の修正・変更費用
- ④ 令和5年度に向けた実施体制等の構築にかかる費用